

第2学期が始まりました

8月20日(金)、第2学期の始業式を行いました。新型コロナウイルスの感染が急拡大する中、オンラインでの始業式となりました。

マスクなしの会話の場面で感染リスクが高まること、個人の感染対策の徹底、マスクをしていても大声を出さないなどの人に感染させない行動をすること、などについて、式の中で改めて子どもたちに話をしました。

若年層の感染が特に家庭内で多くなっているというデータが出ております。ご家庭におかれましても、8月20日に配付した村教育委員会発出文書を参考に、感染防止についてご協力くださいますよう改めてお願いいたします。

今後もうしばらくは、行事開催の時期の変更や内容の簡素化など、その時々々の感染状況に合わせて工夫しながら行うことになりそうです。子どもたちの健康を守りつつ、併せて教育効果が低下しないように対策を講じながら教育活動を展開していきたいと考えております。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。

第2学期の抱負より（抜粋）

●1年2組 鈴木佑奈さん

成長も反省もある1学期と夏休みでしたが、毎日楽しい日々を過ごすことができました。2学期は紫苑祭や体育祭、2回の定期テストなど、行事がたくさんあります。勉強も部活動も両立し、友人との仲も深めながら中学校生活を楽しめるようにがんばりたいです。

●2年2組 會田一葉さん

2学期は、規則正しい生活ができるように心がけ、来年の受験を意識しつつ勉強の質を上げていきたいです。また、紫苑祭や体育祭に向けてクラスの団結力を深めつつ、勉強にも部活にも全力で取り組み、切り替えのできる元気なクラスになれるように、クラス全員でがんばりたいです。

●3年2組 添田実利さん

私たち3年生には高校受験が迫っています。受験は人生の大きな分岐点であり、とても大切なものです。進路実現に向けて勉強にも力を入れていきたいです。3年生にとって様々な行事も最後になります。文化祭や体育祭、修学旅行など、クラス一丸となって、楽しかったと思えるような1年間にしたいです。

東北陸上大会・全中陸上大会

東北陸上大会は8月8日(日)、9日(月)、秋田県秋田市で行われ、本校から3年鈴木優平さん(男子共通 400m)、近藤美憂さん(女子共通 800m)、2年佐藤舞歩さん(女子2・3年 1500m)の3名が参加しました。佐藤さんが5位、近藤さんが8位に入賞しました。

また、全中陸上大会が8月19日(木)、20日(金)に行われ、佐藤舞歩さんが1500mに出場しました。残念ながら決勝進出とはならなかったものの、西郷第二中学校の生徒として素晴らしい頑張りを見せてくれました。



共通 400m 鈴木優平さんの力走(右から二人目)

西郷村少年の主張大会

8月21日(土)、西郷村文化センターにおいて第28回西郷村少年の主張大会が開催され、本校からは3年生の郡司実祈さんが出場しました。『相手を見つめて』という題で、ジェンダーに関する問題について提起するすばらしい内容でした。本校の教育目標のひとつ「共生」にも通じるテーマですね。内容・表現力共に高い評価を得ました。

中学生の部で堂々の最優秀賞を受賞しました。昨年の吉田千春さんに続き、2年連続の最優秀賞でした。おめでとうございます。

裏面に主張全文を掲載しましたのでご一読ください。



「男らしさ」「女らしさ」とは何なのでしょう。例えば、小さな男の子が転んでしまったとき、「男の子なんだから泣かないの。」と声をかけているところを見たり、少し乱暴な言葉を使ってしまったときに、「女の子なんだから綺麗な言葉を使いなさい。」と怒られたりします。そんなとき私の中には、何とも言えない不思議な気持ちが湧き上がるのです。男だからといって、強くないといけない、泣いてはいけない、なんて決まりはないし、綺麗な言葉は男女関係なくみんなが使うべきだと思うからです。人は、何気なく「男だから」「女だから」という言葉で他人のことをくくってしまうことがあります。もちろん悪意を伴ったことではありません。しかし、そんな言葉でくくって相手のことを知った気になったり、自分の価値観から外れたときに、相手のことを異常なもののように扱ったりすることは、悪意の有る無しにかかわらず、差別をしていることになるのではないのでしょうか。「男らしさ」「女らしさ」で相手をくくり、違いを認めないこと、これが私たちの一番身近に潜む「人権を侵害する行為」なのではないのでしょうか。

私は料理が苦手で、簡単な卵焼きすら焦がしてしまうほどです。しかし、そんな私がある日、兄のために料理をしたことがありました。作ったのは「肉丼」。特別美味しそうというわけではなかったのですが、疲れて帰ってくる兄を想って頑張って作りました。帰ってきた兄に料理を出すと、ありがとうや美味しいといった言葉はなく、「女なのに料理できないんだ」の一言でした。兄を想って頑張って作ったものをそんな言葉で片付けられた私の心の中には、怒りや悲しみの感情が渦巻いていたのでした。

「女の人は、みんな料理がうまくなきゃいけないの？」

と兄に聞くと、

「そんなわけじゃないけど、大人になって料理を作ってるのは、男の人より女の人のほうが多いですよ。」

と返ってきました。その言葉の内容や言い方、表情から、あの「女なのに料理できないんだ」という言葉は、悪意なしに言ってるんだろうなと思いました。しかし、小さなことかもしれませんが、私が傷ついたことには変わりありません。この出来事で「男らしさ」や「女らしさ」でくくられることがいかに嫌なことかを身をもって知ることになったのです。

「男らしさ」「女らしさ」でくくられ、自分のことを理解した気になられること、相手から理想を押しつけられること、それがどんなに人を傷つけ、嫌な気持ちにさせるかを、自分の体験をもって知ることができました。では、私のような体験をする人をなくしていくためにはどうすればよいのでしょうか。私たちは、「男らしさ」「女らしさ」という言葉によって自分の可能性を狭められているのではないのでしょうか。けれど、性別によって決めつけられるのではなく、「その人らしさ」を認めてあげることで、その人の可能性はぐんと広がるのではないのでしょうか。

「男らしさ」「女らしさ」を求めてその人のよさを殺してしまうのではなく、相手としっかりと向き合い、「その人らしさ」を認めることこそが、みんなが楽しく、そして幸せに暮らしていける社会を作る第一歩だと思います。性別は、人間を区別するものであって、「男だから強い」「女だから劣っている」などと差別するためのものではありません。これからの社会は「その人らしさ」を認め、得意、不得意をカバーし合える関係を作っていくことが大切だと思います。

私も人と話すとき、「その考えは違う」ではなく、「その考えもありだね」と言い合える関係を周りの人と築いていきたいと思います。

みんながそれぞれの違いを認め合えるように。

